

第4章 構想の基本的な考え方

1. 基本理念と4つの目標

みのかも定住自立圏第4次共生ビジョンでは、「住み続けたい、住んでみたいまち」と思える圏域をめざしています。この将来像を踏まえ、本構想の基本理念と4つの目標を設定しました。

基本理念

「住み続けたいまち、住んでみたいまち」の実現
～地域が連携した公共交通ネットワークの構築～

目標1 地域連携・乗り継ぎによる利便性の高い広域公共交通網の構築

- 広域連携路線の整備や市町村境付近での相互乗り入れ等、圏域内の市町村が連携することで、需要の高い地域間の移動に必要な公共交通手段を確保し、利便性向上を図ります。また、学習や交流が可能な滞在型の交通拠点の整備について検討していきます。
- さまざまな地域へ移動できるようにするため、各路線を交通拠点で接続させた公共交通網を構築します。

目標2 高校生や高齢者等の日常生活の移動に利用しやすい生活交通の確保

- 高校生や高齢者等の日常生活における移動の利便性向上のため、通学・買い物・通院などの生活交通を確保します。これにより、家族の送迎負担を軽減し、人口流出の抑制を図るとともに、高齢者の交流や趣味といった社会参加を支える移動環境の確保を目指します。

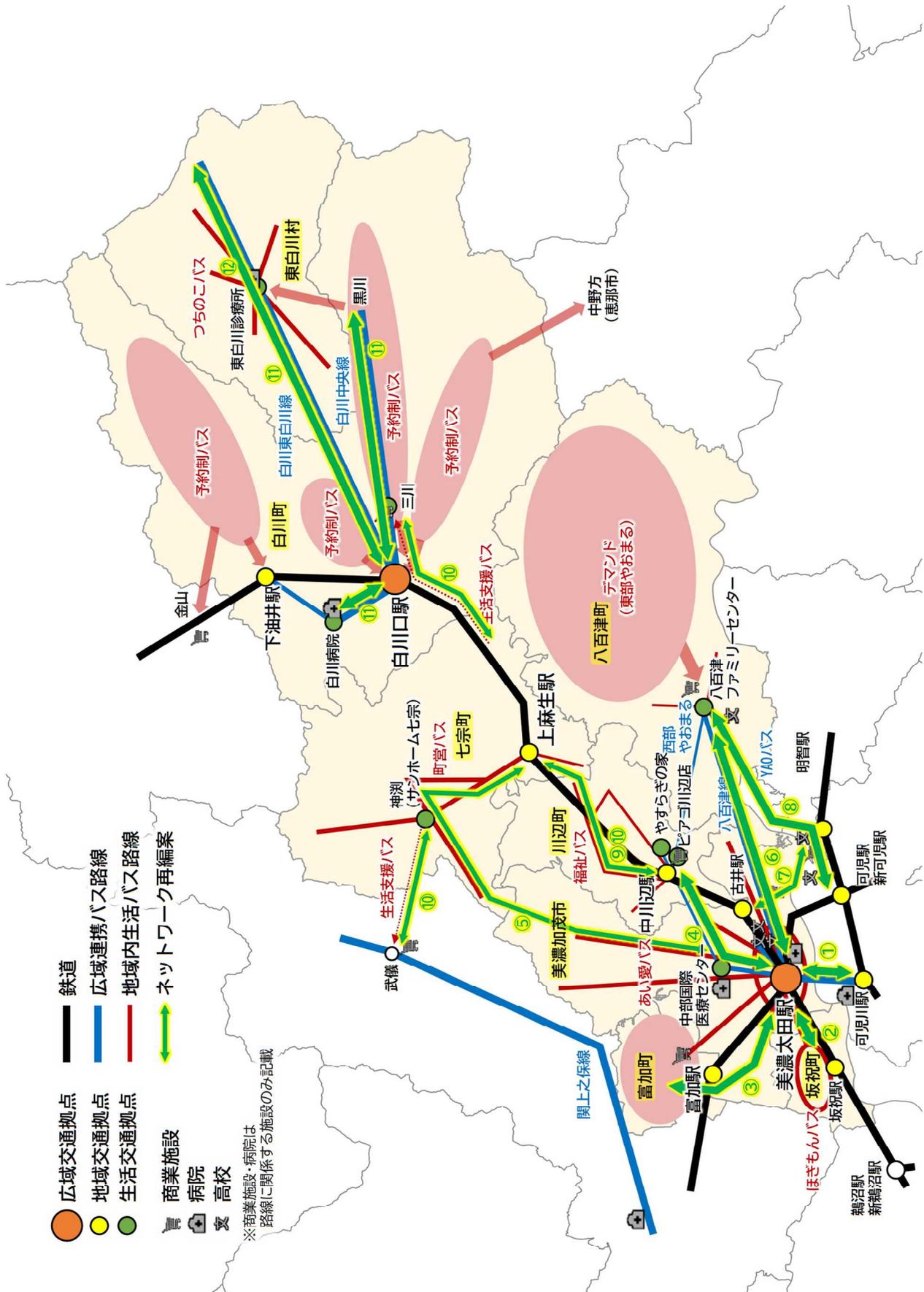
目標3 情報提供の連携・強化による利便性向上・観光周遊の促進

- 観光周遊モデルコースを設定する等、観光客向けの公共交通の情報提供を行い、利用時の利便性向上を図るとともに新規需要の獲得をめざします。

目標4 持続可能な地域公共交通の確保

- 複数の市町村が連携した共同運行等により、効率性と利便性を両立させた持続可能な地域公共交通の確保を図ります。
- 地域全体で公共交通の運転手を確保・育成できる体制を整備し、運転手不足の解消を図ります。

(2) めざす地域公共交通の将来像



(3) 交通拠点

| 拠点種別 | 役割 | 拠点場所 |
|--------|---|---|
| 広域交通拠点 | 鉄道、広域連携バス路線をはじめ、地域内交通などが結節する拠点 | <ul style="list-style-type: none"> ・美濃太田駅（美濃加茂市） ・白川口駅（白川町） |
| 地域交通拠点 | 鉄道と地域内交通が結節する拠点 | <ul style="list-style-type: none"> ・古井駅（美濃加茂市） ・富加駅（富加町） ・中川辺駅（川辺町） ・上麻生駅（七宗町） ・下油井駅（白川町） |
| 生活交通拠点 | 主要施設（病院、商業施設）があり、日常生活でのアクセスが必要で、他路線との結節する拠点 | <ul style="list-style-type: none"> ・中部国際医療センター（美濃加茂市） ・ぎふ清流里山公園（美濃加茂市） ・やすらぎの家（川辺町） ・ピアゴ川辺店（川辺町） ・八百津ファミリーセンター（八百津町） ・三川（マツオカ白川店・ゲンキー加茂白川店）（白川町） ・白川病院（白川町） ・東白川診療所（東白川村） |

(4) ネットワーク再編案

| |
|--|
| <p>①美濃加茂市～可児川駅方面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美濃加茂市あい愛バスの可児市内乗り入れの継続 |
| <p>②美濃加茂市～坂祝町</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美濃加茂市あい愛バスと坂祝町ほぎもんバスの接続連携 |
| <p>③美濃加茂市～富加町</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美濃加茂市あい愛バスの富加町内乗り入れの継続・拡充 |
| <p>④川辺町福祉バス（美濃加茂コース）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・七宗町・八百津町からの路線との接続・連携の検討 |
| <p>⑤美濃加茂市～七宗町</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美濃加茂市あい愛バスと七宗町町営バスの接続強化 |
| <p>⑥東鉄バス八百津線</p> <ul style="list-style-type: none"> ・路線維持に向けた美濃加茂市・八百津町が連携した自主運行バス化 |
| <p>⑦JR高山本線から可児・御嵩方面の通学手段</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古井駅～可児工業高校・東濃実業高校方面へのアクセス手段の検討 |
| <p>⑧八百津町～可児市方面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・YA0バスの利便性向上（運行区間等の見直し） |
| <p>⑨川辺町～七宗町方面（川辺町福祉バス×七宗町営バス）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下麻生大牧～大貝戸での接続・連携（共同運行）の検討 |
| <p>⑩七宗町～武儀・白川方面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町外の商業施設等へのアクセスの確保 |
| <p>⑪白川町・東白川村～美濃加茂市方面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・濃飛バス白川中央線・白川東白川線・予約制バスとJR高山本線との接続の維持 |
| <p>⑫白川町～東白川村</p> <ul style="list-style-type: none"> ・濃飛バス白川東白川線とつちのこバスの連携 |

①美濃加茂市～可児川駅方面

- ・美濃加茂市あい愛バスの可児市内乗り入れの継続

関係自治体 美濃加茂市・可児市

現状

- ・美濃加茂市あい愛バスでは、古井駅-可児川駅線が可児市内にも乗り入れており、「可児川駅」や「可児とうのう病院」に停留所が設置されています。この路線は、市内から名鉄を利用して名古屋方面へ向かう方々や、「可児とうのう病院」へ通院する方々に利用されているほか、市外から名鉄を利用して加茂高校、加茂農林高校、美濃加茂高校への通学手段としても運行されています。
- ・同路線は通学利用が非常に多く、特に朝の便は1台では乗り切れず、続行便の運行により対応されています。
- ・乗降データによると、あい愛バスの中でも最も利用者の多い路線で、平均9.3人/便の利用があることから、通学需要に対応するため路線を維持する必要性が高くなっています。

今後の方向性

- ・各高校への通学や可児とうのう病院への通院等に利用しやすい路線・ダイヤを引き続き確保し、利用状況や通学・通院実態に注視しながら、ダイヤや車両等の改善を検討します。



②美濃加茂市～坂祝町

- ・美濃加茂市あい愛バスと坂祝町ほぎもんバスの接続連携

関係自治体 美濃加茂市・坂祝町

現状

- ・美濃加茂市あい愛バスは、坂祝町内にある「オークワ坂祝店」まで乗り入れており、主に太田地区や加茂野地区の方々が買い物のために利用されています。
- ・坂祝町ほぎもんバスは、美濃加茂市内の中部国際医療センター、美濃太田駅、美濃加茂市役所、スーパーマーケットパロー太田店に停留所を設置しています。
- ・坂祝町内には商業施設が少ないため、美濃加茂市方面での通院や買い物を目的とした移動の需要が高く、人流データによると町民による市内への移動も多くみられます。

今後の方向性

- ・美濃加茂市あい愛バスと坂祝町ほぎもんバスが共通のバス停で乗り継ぎができるよう連携を図り、市民・町民の移動の利便性向上をめざします。



③美濃加茂市～富加町

- ・美濃加茂市あい愛バスの富加町内乗り入れの継続・拡充

関係自治体 美濃加茂市・富加町

現状

- ・施設利用者ヒアリングによると、スーパーマーケットバロー富加店は美濃加茂市民の利用も多くなっています。また、人流データによると、富加町内から美濃加茂市内の医療施設・商業施設への移動も多くみられます。
- ・平成24年5月から平成26年9月まで定住自立圏連携事業として美濃加茂市あい愛バスの町内乗り入れ便を運行しました。ほぼ町内全域をカバーする東西2ルートで高齢者の買い物や通院支援を目的として運行しましたが、各ルート週2日運行1日3便の定時路線でニーズには合わず乗客数が少ないため、平成26年9月末をもって中止となりました。
- ・富加町では、一般住民が利用できるバス路線はあい愛バス、関シティバスに限られ、町内各地をカバーするコミュニティバス路線は運行されていません。富加町が単独で新たな路線運行を行うには、ハードルが高くなっています。

今後の方向性

- ・あい愛バスは富加町内のごく一部のみに乗り入れていますが、利用状況や需要に応じて、美濃加茂市および富加町が共同運行を行い、富加町内の運行を拡充する等、さらなる連携の可能性を検討します。
- ・町内各所から乗降できるデマンド方式等の効率よい運行で、美濃加茂市（美濃太田駅・中部国際医療センター等）、関市（中濃厚生病院等）、富加駅・スーパー等へのアクセス構築を検討します。



④川辺町福祉バス（美濃加茂コース）

・七宗町・八百津町からの路線との接続・連携の検討

関係自治体 川辺町・七宗町・八百津町（・美濃加茂市）

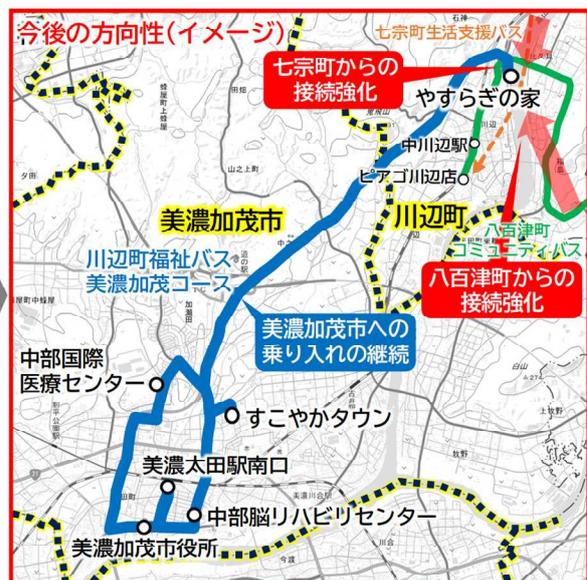
現状

- ・川辺町福祉バス美濃加茂コースは、川辺町中心部（やすらぎの家）から直接美濃加茂市の美濃太田駅や中部国際医療センター、美濃加茂市総合福祉会館（すこやかタウン）等にアクセスすることができます。
- ・七宗町では、利用者は限定されますが、生活支援バスが川辺町中心部（ピアゴ川辺店等）に乗り入れていています。
- ・八百津町では、西部コミュニティバス（西部やおまる）が川辺町中心部（ピアゴ川辺店等）に乗り入れていています。
- ・七宗町や八百津町（上飯田地区等）から中部国際医療センターに公共交通や送迎バスで向かう場合、七宗町営バスや八百津町西部コミュニティバス（西部やおまる）で上麻生駅や中川辺駅に向かい、JR高山本線で美濃太田駅を經由して、さらにバス（病院送迎バス、あい愛バス、東鉄バス等）に乗り継ぐ必要があり、何度も乗り換えが生じています。
- ・人流データによると、七宗町や八百津町から美濃加茂市内の中部国際医療センターや商業施設への移動も多くみられます。

今後の方向性

- ・七宗町生活支援バス、八百津町西部コミュニティバスと川辺町福祉バスを接続する等、連携を図り、両町から美濃加茂市の中部国際医療センターへのアクセス向上を検討します。

※七宗町や八百津町から川辺町福祉バス美濃加茂コースへの乗り継ぎを前提とする場合、各町の福祉バスの費用負担についても検討する必要があります。



⑤美濃加茂市～七宗町

- ・美濃加茂市あい愛バスと七宗町町営バスの接続強化

関係自治体 美濃加茂市・七宗町

現状

- ・美濃加茂市あい愛バスほたる線は「上川浦公民館」まで運行しており、七宗町の町営バスは「間見」まで運行しています。七宗町からは通院や買い物のため、美濃加茂市への移動ニーズがあるものの、JR高山本線や複数のバスを乗り継がなければならず、移動が不便な状況です。
- ・住民アンケートでも、日常生活で七宗町内から美濃加茂市内の商業施設や医療施設への買い物や通院が多くみられます。

今後の方向性

- ・美濃加茂市と七宗町が連携し、あい愛バスと七宗町町営バスのバス停間での接続強化を図ります。また、利用者が乗り継ぎやすいダイヤを設定することで、移動の利便性を向上させ、地域住民のお出かけを促進します。



⑥東鉄バス八百津線

- ・路線維持に向けた美濃加茂市・八百津町が連携した自主運行バス化

関係自治体 美濃加茂市・八百津町

現状

- ・東鉄バス八百津線は、美濃加茂市から八百津高校および可茂特別支援学校への通学、八百津町から加茂高校や可茂特別支援学校等への通学、中部国際医療センターへの通院に利用される生活に必要な路線ですが、利用者数の減少が続いており、事業者単独での運行が困難になっています。
- ・現在は、美濃加茂市および八百津町からの補助により運行を維持していますが、厳しい状況は続いており、運行方法の見直しを含め検討する必要があります。
- ・高校生アンケートや事業者ヒアリングによると、東鉄バス八百津線は事業者路線のため通学定期券の価格が鉄道路線や自主運行バスよりも割高となり、定期券価格の安いJR太多線・名鉄広見線・YA0バスを經由した遠回りのルートで美濃太田～八百津間で通学する生徒もみられます。

今後の方向性

- ・美濃加茂市と八百津町が連携し、両市町が連携した共同運行の自主運行バスに転換する等、路線の維持に向けた取り組みを行います。
- ・需要の高い施設への経由地の追加やあい愛バスむくの木・そうきち線と路線が重複する区間での路線見直しを検討し、利便性や効率性の向上を図ります。
- ・自主運行バスとすることで、並行するJR太多線・名鉄広見線・YA0バスの定期券価格も考慮した上で、定期券の金額設定を見直し、遠回りをしなくても通学しやすい環境に整備します。



⑦JR高山本線から可児・御嵩方面の通学手段

- ・古井駅～可児工業高校・東濃実業高校方面へのアクセス手段の検討

関係自治体 美濃加茂市・可児市・御嵩町

現状

- ・古井駅での利用者ヒアリングによると、川辺町・七宗町・白川町方面から可児工業高校・東濃実業高校に通学する際、JR高山本線を利用して古井駅で下車し、両校まで約4～5km自転車を利用して通学する生徒が一定数みられました。
- ・自転車を利用せず、最寄り駅である可児駅や明智駅まで利用するには、美濃太田駅や可児駅で乗り換える必要があり、公共交通だけで通学する場合、不便な状況となっています。

今後の方向性

- ・各校の生徒の居住地や需要の規模等を検証し、必要に応じて古井駅と両高校方面を結ぶ公共交通手段の導入を検討します。



⑧八百津町～可児市方面

- ・ YAOバスの利便性向上（運行区間等の見直し）

関係自治体 八百津町・可児市・御嵩町

現状

- ・ YAOバスは、明智駅で可児方面の名鉄広見線に接続しており、可児方面と八百津町方面間の移動での利用が多くなっていますが、明智駅に乗り入れるために明智橋まで東側に迂回するルートで運行されており、やや遠回りとなっています。
- ・ 名鉄広見線を経由して名古屋方面に向かう場合、明智駅と新可児駅の2駅で連続して乗り換える必要があります。
- ・ 旧名鉄八百津線の沿線を結んでいますが、住民アンケートや利用者アンケートでは、御嵩町の商業施設や可児方面に行きたいという要望も多くみられます。

今後の方向性

- ・ バスの特長を活かし、旧名鉄八百津線のルートにこだわらず、時間帯ごとの需要に応じたルートを検討するとともに、日常生活の利便性向上を目的に商業施設などを経由する設定を考慮します。
- ・ 御嵩町の商業施設や可児市中心部の施設等にも利用しやすいようルートを延長し、可児駅等まで運行することも検討します。



⑨川辺町～七宗町方面（川辺町福祉バス×七宗町営バス）

- ・下麻生大牧～大貝戸での接続・連携（共同運行）の検討

関係自治体 川辺町・七宗町

現状

- ・住民アンケートによると、七宗町内には商業施設が少なく、川辺町方面で買い物を
する町民も多く、川辺町方面への移動の需要があります。
- ・国道41号沿いの川辺町・七宗町境付近は、集落が連続しているものの、川辺町福祉
バスは川辺町大貝戸で、七宗町営バスは下麻生大牧で折り返すため、両町間を行き
来することができないため、七宗町内から川辺町方面へ行く場合、JRに乗り継ぐ必
要があり、不便な状況となっています。

今後の方向性

- ・川辺町福祉バスが上麻生方面に、七宗町営バスが川辺町方面に相互に乗り入れる等、
両町の連携により、利便性向上が図れないか検討します。
- ・川辺町福祉バスは道路運送法によらない無償運行、七宗町営バスは自家用有償運送
（交通空白）による有償運行と運行形態が異なるため、適切な運行形態も含め検討
します。



⑩七宗町～武儀・白川方面

- ・ 町外の商業施設等へのアクセスの確保

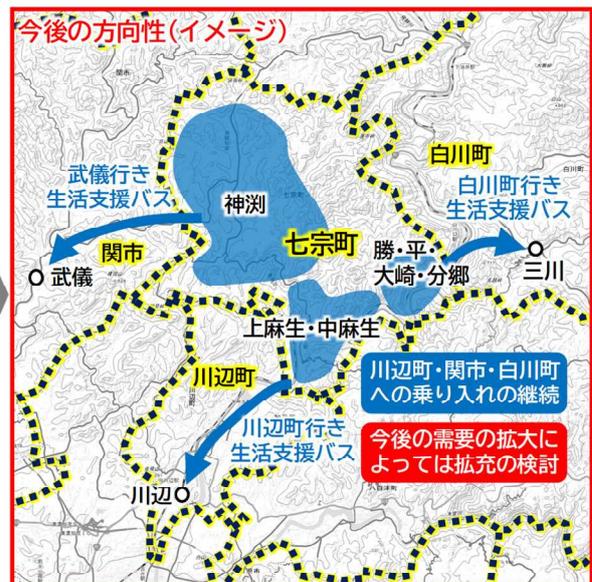
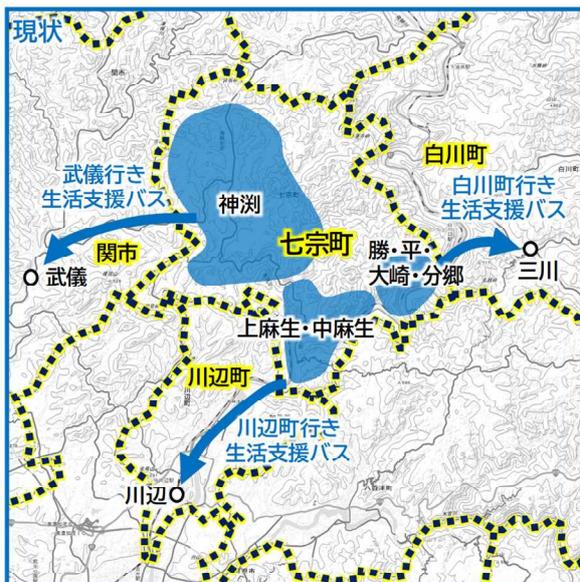
関係自治体 七宗町・川辺町・白川町・関市

現状

- ・ 七宗町内には大きな商業施設がないため、町外への買い物需要が高くなっています。
- ・ 生活支援バスが各地区から川辺町、白川町、関市武儀方面に運行されており、高齢者等を中心に利用されています。
- ・ 運行事業者ヒアリングによると、現状の利用者にとっては町外の買い物施設や医療施設に移動するための唯一の交通手段であり、引き続き確保していく必要があります。

今後の方向性

- ・ 引き続き、生活支援バス事業を継続して行い、町外への買い物や通院のアクセスを確保します。
- ・ 今後の需要の拡大によっては拡充も検討します。



①白川町・東白川村～美濃加茂市方面

- ・濃飛バス白川中央線・白川東白川線・予約制バスとJR高山本線との接続の維持

関係自治体 白川町・東白川村

現状

- ・白川町内を運行する予約制バスや白川中央線、白川町～東白川村間を運行する白川東白川線を利用して、白川町・東白川村内から高校への通学や白川病院等への通院に利用できるように公共交通が整備されています。
- ・運行事業者ヒアリングによると、白川中央線・白川東白川線や通学や通院に必要な路線であり、定期的にダイヤ等を見直しながら路線を確保していく必要があります。
- ・白川町から美濃加茂市方面への移動は、高校生の通学や通院を目的とした利用が多くを占めています。高校生の多くは駅から自転車通学であり、移動手段が限定されており、利便性に課題があります。
- ・美濃加茂市には商業施設や娯楽施設が複数立地しており、利用ニーズも高くなっています。一方で、公共交通でのアクセス方法がわからず、利用につながないケースがみられます。

今後の方向性

- ・今後もJR高山本線のダイヤ改正や高校の始業終業時刻等に合わせ、定期的に見直しを行い、通学や通院に利用できる交通手段を確保します。
- ・高校生の通学実態を踏まえ、通学時間帯に配慮した運行体制の充実や、安心・安全で持続可能な通学環境の整備を図ります。
- ・移動手段や利用方法に関する情報共有を行い、利用促進を図ります。



⑫白川町～東白川村

- ・濃飛バス白川東白川線とつちのこバスの連携

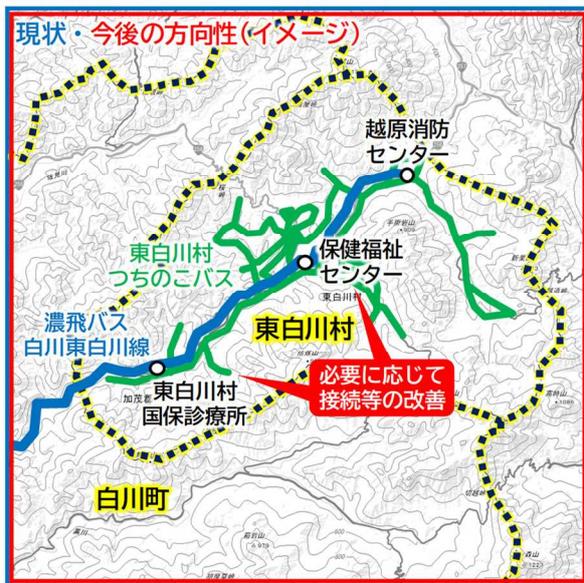
関係自治体 東白川村

現状

- ・令和6年から東白川村つちのこバスの運行が開始され、村内各地から診療所等へのアクセスが整備されました。
- ・運行事業者ヒアリングによると、つちのこバスと白川東白川線と路線が重複する区間では、従来の白川東白川線の利用者がつちのこバスに転換しているケースもみられ、白川東白川線の利用者の減少にもつながっています。

今後の方向性

- ・利用状況を注視しながら、つちのこバスから白川東白川線に乗り継ぐことで、村内各地区から白川町市街地・白川口・白川病院方面への利便性が向上できるよう、引き続き白川東白川線とつちのこバスが連携した運行のさらなる改善を検討します。



第5章 目標達成のために行う施策

1. 事業体系

基本理念と4つの目標、将来の公共交通ネットワークイメージ実現に向け、以下の施策に取り組みます。

| 目標 | 実施施策 |
|---|---------------------------|
| 【目標1】 地域連携・乗り継ぎによる利便性の高い広域公共交通網の構築 | 1-1 鉄道や広域連携バス等の維持・整備 |
| | 1-2 交通拠点での接続を設定した公共交通網の整備 |
| | 1-3 市町村境付近での相互乗り入れ |
| | 1-4 キャッシュレス決済への対応の促進 |
| 【目標2】 高校生や高齢者等の日常生活の移動に利用しやすい生活交通の確保 | 2-1 コミュニティバス・デマンド型交通の路線再編 |
| | 2-2 定路線バスや福祉輸送の連携 |
| 【目標3】 情報提供の連携・強化による利便性向上・観光周遊の促進 | 3-1 公共交通を利用した観光モデルコースの作成 |
| | 3-2 GTFSデータを活用した公共交通情報の充実 |
| 【目標4】 持続可能な地域公共交通の確保 | 4-1 共同運行、貨客混載による効率化の検討 |
| | 4-2 運転手確保に向けた取り組み |

2. 施策内容

目標1 地域連携・乗り継ぎによる利便性の高い広域公共交通網の構築

施策1-1 鉄道や広域連携バス等の維持・整備

【施策概要】

- 都市間や地域間を結ぶ広域移動を担う鉄道や広域連携バス等について、高校生の通学や高齢者の買い物・通院等を中心とした日常生活の移動手段を確保するため、引き続き維持していきます。需要に応じて路線の見直しや新規路線も含めた路線再編の実施も検討し、さらなる利便性向上を図っていきます。

【事業主体】 圏域市町村、交通事業者

施策1-2 交通拠点での接続を設定した公共交通網の整備

【施策概要】

- 複数の路線を交通拠点で接続し、スムーズで快適に乗り継ぎができるような公共交通網を整備します。
- 利用状況や需要に応じて、複数の路線が乗り継ぎしやすい接続ダイヤを検討します。
- 交通拠点では、快適な待合環境を整備します。
- 学習や交流が可能な滞在型の交通拠点の整備について検討します。

【事業主体】 圏域市町村、交通事業者

施策1-3 市町村境付近での相互乗り入れ

【施策概要】

- 圏域では行政界を越えた移動需要が多いことから、複数の自治体が連携してバス路線を整備することは、地域住民や来訪者の利便性の向上につながります。市町村境で路線が分断されており、かつ市町村間での移動需要が見込まれる箇所では、他路線への連携の拡大を推進し、相互乗り入れによる運行や共同運行の検討を進めます。

【事業主体】 圏域市町村、交通事業者

施策1-4 キャッシュレス決済への対応の促進

【施策概要】

- 利便性の高い公共交通の整備とあわせ、キャッシュレス決済への対応を促進し、利用しやすい環境を整備します。
- TOICA利用エリアをJR高山本線的美濃太田駅以北に拡大し、交通系ICカード全国相互利用サービスが利用できるよう引き続き要望を行います。

【事業主体】 交通事業者、圏域市町村

目標2 高校生や高齢者等の日常生活の移動に利用しやすい生活交通の確保**施策2-1** コミュニティバス・デマンド型交通の路線再編**【施策概要】**

- 高校生の通学や、高齢者等の通院・買い物・交流・趣味等に利用しやすい公共交通手段を確保します。
- 地域内の各エリアから目的地へ行くことができるようにするため、地域内を運行するコミュニティバスやデマンド型交通、福祉バス等の地域内交通の充実を図り、これらの路線を結節点で鉄道や広域路線バスに結節させることで、目的施設や周辺市町へ気軽におでかけができるように路線再編を行います。

【事業主体】 圏域市町村、交通事業者**施策2-2** 定時定路線バスや福祉輸送の連携**【施策概要】**

- 現状では、「公共交通」としての路線バスやデマンド型交通、「福祉施策」としての福祉バスや福祉有償運送等が、同じ地域で運行されているケースがみられます。今後の需要に応じて、福祉有償運送の一般路線化等も検討し、限られたリソースの中で持続可能な公共交通を維持できるように定時定路線バスや福祉輸送の連携を検討します。

【事業主体】 圏域市町村、交通事業者

目標3 情報提供の連携・強化による利便性向上・観光周遊の促進

施策3-1 公共交通を利用した観光モデルコースの作成

【施策概要】

- 公共交通を利用して圏域内を周遊できる観光モデルコースを作成し、WEBサイト等で情報提供を行うことで、圏域の観光周遊の促進を図ります。

【事業主体】 圏域市町村、観光協会

施策3-2 GTFSデータを活用した公共交通情報の充実

【施策概要】

- 圏域内を運行するバスのGTFS整備を進め、検索サービス事業者に提供することで、利用者がバスの情報を調べやすい環境を整備します。
- 令和11年の本構想評価時にはすべてのバスのオープンデータ化をめざします。

GTFSデータ整備状況（定時定路線）

| 路線名等 | GTFSデータ作成 | オープンデータ化 | 関係市町村 |
|------------------|-----------|----------|--------------|
| 美濃加茂市あい愛バス | ○ | ○ | 美濃加茂市 |
| 坂祝町ほぎもんバス | × | × | 坂祝町 |
| 川辺町福祉バス | × | × | 川辺町 |
| 七宗町営バス | ○ | ○ | 七宗町 |
| 東鉄バス八百津線 | × | × | 八百津町 |
| YAOバス | ○ | ○ | 八百津町・可児市・御嵩町 |
| 八百津町西部やおまる | ○ | ○ | 八百津町 |
| 八百津町無料観光シャトルタクシー | ○ | ○ | 八百津町 |
| 濃飛バス白川中央線 | ○ | ○ | 白川町 |
| 濃飛バス白川東白川線 | ○ | ○ | 白川町・東白川村 |
| 東白川村つちのこバス | × | × | 東白川村 |

（令和7年12月末時点）

【事業主体】 交通事業者、圏域市町村、検索サービス事業者

※GTFS：「General Transit Feed Specification」の略で、バスや電車の時刻表、停留所などの情報を、共通の形式で提供するためのデータのこと。

目標4 持続可能な地域公共交通の確保

施策4-1 共同運行・貨客混載による効率化の検討

【施策概要】

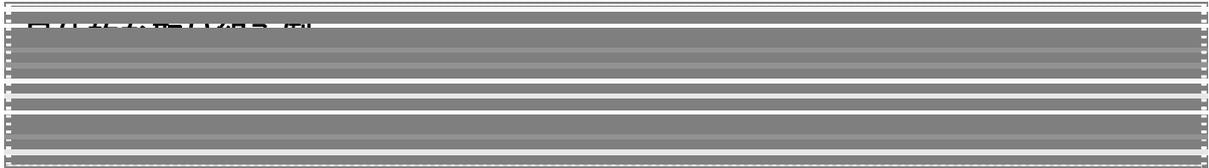
- 圏域内の一部（YA0バス、白川東白川線等）では、複数市町村による共同運行や複数市町村が連携した運行が行われ、効率的な運行や市町村境をまたいだ利便性の高いサービスが提供されています。
- その他市町村境をまたぐ需要が高いエリア等においても、複数市町村による共同運行や複数市町村が連携した運行の検討を行い、効率化や利便性向上を図ります。
- 白川町・東白川村では、貨客混載について検討が進められています。圏域内の他地域でも、荷物の輸送の需要が考えられる路線では、貨客混載の導入可能性を検討します。

【事業主体】 圏域市町村、交通事業者

施策4-2 運転手確保に向けた取り組み

【施策概要】

- 運転手不足が深刻化する中で地域公共交通を安定して維持するため、地域全体で担い手を確保・育成する体制を整備します。
- 交通事業者や社会福祉協議会等と連携し、働きやすい環境づくりや多様な人材の参入促進、地域内での担い手育成等の将来的にも持続可能な体制を整備します。



【事業主体】 交通事業者、社会福祉協議会、圏域市町村

バス運転手合同説明会チラシ（東濃地区）



〔岐阜県バス協会〕

第6章 構想の評価指標

1. 評価指標の設定

施策の実施による効果を計測するため、下記の評価指標を設定します。

| 評価指標 | | 現況値 (令和7年度) | 目標値 (令和12年度) |
|------------|---------------------------------------|----------------|-----------------|
| 目標1 | 地域連携・乗り継ぎによる利便性の高い広域公共交通網の構築 | | |
| 指標1 | 連携市町村年間バス利用者数 | (R6)307,458人 | 320,000人以上 |
| 指標2 | 複数市町村が連携した路線・ダイヤ見直しの実施件数 | — | 1件以上/年 |
| 目標2 | 高校生や高齢者等の日常生活の移動に利用しやすい生活交通の確保 | | |
| 指標3 | 各地区から公共交通で60分以内に行ける高校・商業施設・医療施設の増加数* | — | 10箇所以上/5年 |
| 目標3 | 情報提供の連携・強化による利便性向上・観光周遊の促進 | | |
| 指標4 | 観光モデルコースの作成数 | 0コース | 10コース以上/5年 |
| 目標4 | 持続可能な地域公共交通の確保 | | |
| 指標5 | 共同運行・貨客混載・運転手募集に係る説明会等の実施件数 | 0件 | 1件/年以上 |

*18・19ページの「行ける・行けない表」での「○」の増加数

2. 評価の方法

以下のスケジュールに基づき、施策の実施状況および評価指標の達成状況を確認します。その結果を基に、施策の効果検証、路線ごとの課題・改善策の検討を行い、次年度以降の事業実施方針を決定します。

